

2015年度 教育学部FDシンポジウム

教職実践演習

池野 修
(英語教育講座)

教職実践演習

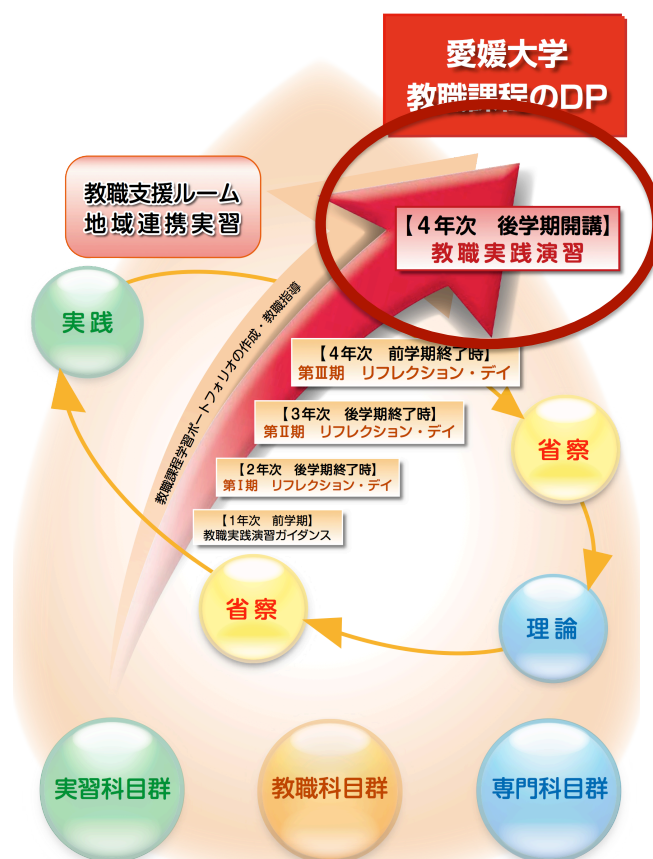
- ⇒ 2010年度(平成22年度)入学生から新設された、「教職に関する科目」の必修科目(2単位)
- ⇒ 教職課程の学習を終えた4年次後学期に開講される授業科目

教職課程の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されたかについて、大学が自らの養成する教員像や到達目標等(愛媛大学教職課程のDP)に照らして最終的に確認するものであり、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられています。

**愛媛大学教職課程のディプロマ・ポリシー
= 大学として養成する教員像(到達目標)**

愛媛大学教職課程のディプロマ・ポリシー(DP)	
DP1	教科・教職に関する幅広い基礎知識と、得意分野の専門的知識を有している 教科・教職に関する知識
DP2	学校現場で生じている問題を始めとして地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができる 現代的・社会的課題に対する関心と問題解決力
DP3	幼児・児童・生徒の発達に応じた保育・授業の構成や教材・教具の工夫ができる 授業力
DP4	実践から学び、自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた学習ができる 実践と理論の往還による学びと省察力
DP5	教育的愛情を持って幼児・児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる 対人関係力

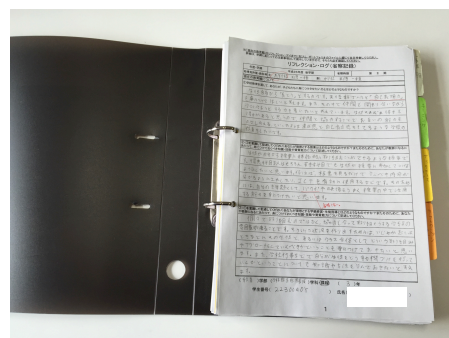
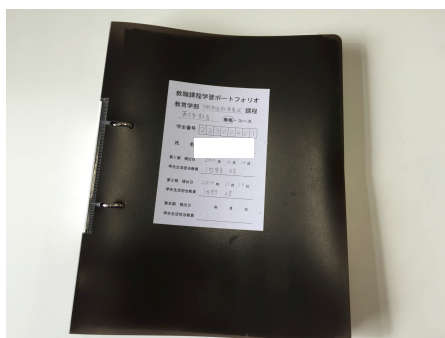
愛媛大学の教員養成システム



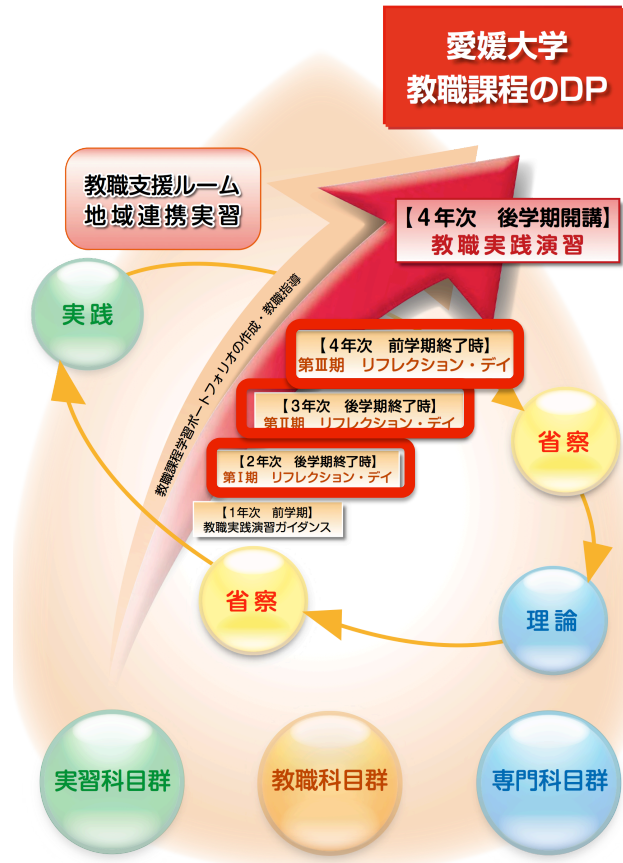
教職実践演習の履修条件

- ① 教職課程学習ポートフォリオを作成していること
- ② リフレクション・デイ(第Ⅰ期, 第Ⅱ期, 第Ⅲ期)に参加していること
- ③ 4年次後学期の時点で, 未修得の「教職に関する科目」が3科目以内であること
- ④ 4年次後学期の時点で, 取得を希望する教員免許状の必修要件として指定されている教科の指導法または保育内容の指導法の半数以上を修得済みであること

教職課程学習ポートフォリオ(教職ポートフォリオ) ＝愛媛大学版「履修カルテ」

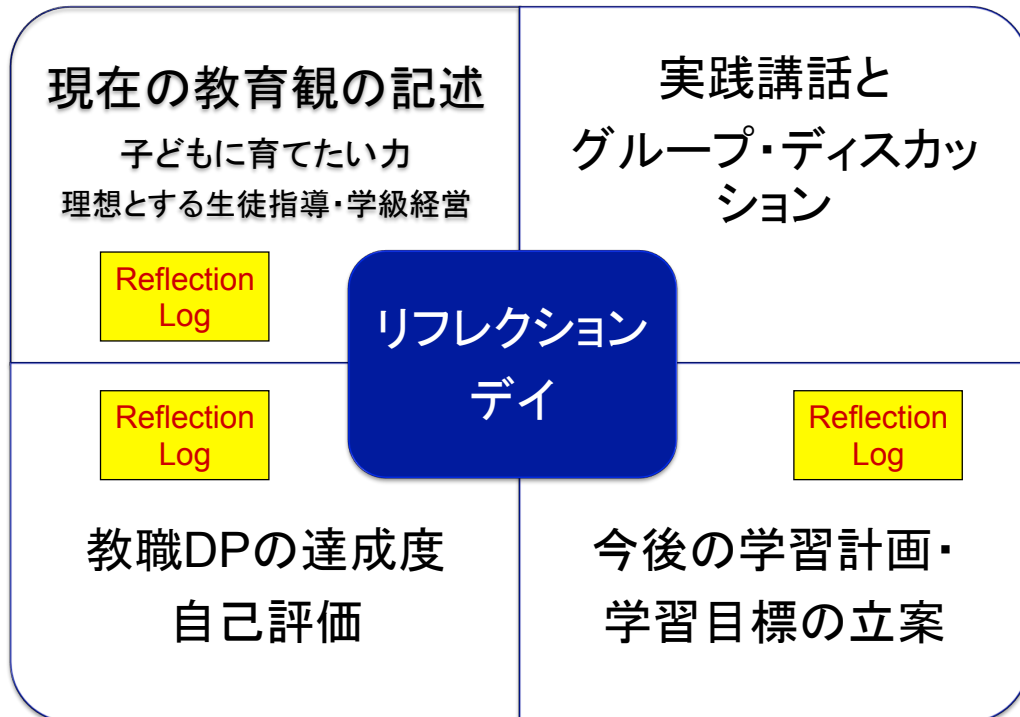


愛媛大学の教員養成システム

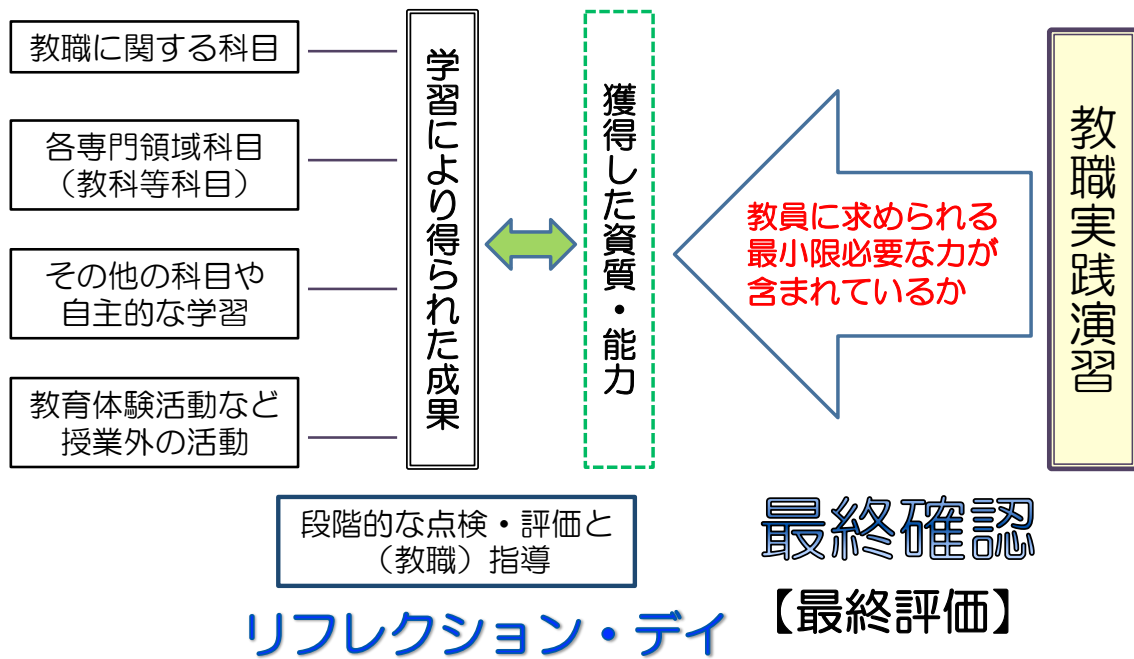


リフレクション・デイ

=これまでの教職に関する学びの振り返り+これからの計画



教職課程での学び, リフレクション・デイ, 教職実践演習



「教職実践演習」の内容を決めるにあたって

- ① 愛媛大学教職課程DP①～⑤に対応したもの, その達成状況が評価できる内容とする。
- ② 事例研究や模擬授業等も取り入れる。

「役割演技(ロールプレイング), 事例研究, 現地調査(フィールドワーク), 模擬授業等も積極的に取り入れることが望ましいこと」(課程認定委員会決定)

- ③ 教育委員会指導主事等による講話も含んだ内容とする。

「学校現場の視点を取り入れる観点から, 必要に応じて, 現職の教員又は教員勤務経験者を講師とした授業を含めること」(課程認定委員会決定)

パート1 (教職系教員が担当)

	テーマ	内容	DP
1	教職に関する基礎知識と 学習歴の確認	教職ポートフォリオの確認 教育法規に関する小テスト	①
2	学級づくりと 幼児・児童・生徒への対応	「子どもの心に響く教師の言葉」 (グループ活動) 「学級開き・参観日における学級担 任としての所信表明」 (スピーチ原稿をレポートとして提出)	④ ⑤
3	幼児・児童・生徒を取り巻く 社会環境とそれへの対応	学校教育に関する課題 (e.g. いじめ, 学校裏サイト) についての指導の具体案作成	① ②
4	上記の課題に関する 指導の具体例 の発表準備	上記の課題に関する 発表準備	② ③
5	指導の具体例 の発表	上記の課題に関する 発表	

パート2 (外部講師, 苅田先生, 教職系教員, 教職コが担当)

	テーマ	講師	DP
1	教員の職務と 学校現場における課題 (実践講話とグループ討論)	稲葉直行 (松山市教育委員会学校教育課 管理指導監)	② ⑤
2	学校の安全管理 (実践講話とグループ討論)	福本純一 (愛媛大学客員教授)	
3	保護者 (PTA) との連携 (実践講話とグループ討論)	中村和憲 (松山市小中学校PTA連絡会顧問)	
4	これからの特別支援教育 (実践講話とグループ討論)	苅田知則 (愛媛大学教育学部准教授)	

それぞれの回での学びについて, レポートを書き
Moodle 2 を使って提出
→ 教職系教員が採点

パート3 (教科(教育)系教員が担当)

	テーマ	内容	DP
1	教材研究と指導案 教育実習の振り返り	教育実習で用いた教材や指導案の 相互評価と振り返り 模擬授業の準備	① ③ ④
2	実践活動1 (模擬授業など)	模擬授業 授業の提案(発表) 保育指導 教育現場での活動 その他	① ③ ④ ⑤
3	実践活動2 (模擬授業など)		
4	実践活動3 (模擬授業など)		
5	実践活動4 (模擬授業など)		

パート3 英語クラス(2014年度) 第10回

1	英語科教員に必要とされる資質・能力の自己診断
2	教育実習についてプレゼンテーション 4人グループになり一人10分程度で発表 「自分が行った授業」および「教育実習で学んだこと」 発表後に質疑応答
3	レポート作成 (A) 教育実習や実践体験を通して学んだこと (B) 明らかになった課題と現在の取り組み
4	次週から始まる模擬授業についてのガイダンス

パート3 英語クラス(2014年度)での模擬授業(第11~14回)

- 3人一組で、毎時間2グループが実施
- 1グループの持ち時間は30分程度(一人の持ち時間は10分程度)
- 50分授業の全てを実演することは不可能なので、授業のいくつかの部分に焦点化して実施
- 今までの模擬授業は、授業実践力をつけるのが目的であったが、「教職実践演習」における模擬授業は、授業実践力がついているかどうかを判断することが目的
- 模擬授業者は、授業前にその授業の背景説明を行い、授業後に自評を述べる
- 模擬授業担当者以外の受講生は、生徒役として模擬授業に参加
- 生徒役として受けた模擬授業について、次週までに簡単なレポートを作成し提出

模擬授業及びレポートの評価規準と評価方法

	DP	評価規準	評価方法
1	教科・教職に関する幅広い基礎知識と、得意分野の専門的知識を有している	(1) 英語教員に必要な英語能力を習得しているか。 (2) 学習対象である英語という言語についての正確な知識を持ち合わせているか。 (3) 学習指導要領の内容をきちんとふまえた内容になっているか。	観察 観察 指導案
3	児童・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる	(1) 発達段階に相応しい内容になっているか。 (2) 効果的な教材が準備されているか。教材の活用が効果的に行われているか。 (3) 板書や発問、的確で明瞭な話し方、落ち着いた態度など、授業を行う上での基本的な技術を身に付けているか。 (4) 適切な内容および形式の学習指導案が作成されているか。	指導案 観察 観察 指導案
4	実践から学び、自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた学習ができる	(1) 実施した模擬授業に関して、専門的で適切な振り返り(自評)ができているか。 (2) 他の学生による模擬授業を観察して、専門的で適切な振り返り(コメント)ができているか。	観察 振り返り レポート
5	教育的愛情を持って児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる	同じグループの学生との協同して模擬授業を準備し、実施しているか。	観察

学期を通した評価のイメージ

		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
第1回	①	A				
第2回	A		B			C
第3回	②				C	A
第4回	B		B			A

A = 十分に達成できている
B = 達成できている
C = おおむね達成できている
D = 達成できていない(補充が必要)

「教職実践演習」の方針

- 15回全ての授業に出席することが必要
欠席 → 教職支援ルーム → **補習**学習 → 評価
- 評価 = 各回の授業に指定されたDPごとに4段階(ABCD)で
- 評価D → **補充**学習 → 評価C(一律に評価C)

教職実践演習 第15回

1	教職ポートフォリオのチェック
2	「教育観」の記述(レフレクション・ログの一部)からみる成長の過程
3	教職課程DPの最終自己評価
4	「学びの軌跡の集大成」 教職ポートフォリオを参考にしながら、 4年間の学修の道筋を図示し、まとめる

19

「教職実践演習」の課題

- 「教職課程の質保証」に対応した内容になっているか
- (ねらいの達成に必要なことはそのままにして)簡素化できる部分はないか
- 担当者をどうしていくか
- 教職実践演習で得られたデータ(評価)をどのように教職課程の改善に生かしていくか